

サステナブルファイナンス

SDGs立脚の

企業経営下支え

国連が2015年に採択した持続可能な開発目標(SDGs)は、社会的責任を担う企業にとって重視すべきテーマとなっている。地域の事業者を財務面で支える県内の地方金融機関では、取り組みに意欲的な取引先の資金繰りを支援する「サステナブルファイナンス(SF)」に力を入れる。30年までという目標達成の目安の折り返しを迎えた中、融資の動きが活発化している。

(久下悠一郎)

旬ワードの現場から



放課後デイサービスを利用する子どもたちが海岸の漂着物から作ったアート。ウェル恵明会が取り組むSDGsの活動の一つだ。磐田市のるびなすスクール劇場で

カラフルな色紙や塗料で彩られた球体や四角い容器。福祉施設運営のウェル恵明会(浜松市中区)の放課後デイサービスを利用する県西部の子もたちが、海岸で見つけた浮具などのごみを、アートに生まれ変わらせた。作品は地域住民や企業が参加する催しで定期的に披露し、障害がある子の社会経験を増やす取り組みにつなげている。

こうした活動を続ける同社に対して、浜松いわた信用金庫は今年3月、「SDGs支援資金」として使途を問わない3千万円を融資した。地域に好影響をもたらす事業者を支援するという、融資の趣旨に合致していると判断した。

ウェル恵明会は廃業の危機にあった同業施設の運営を引き継ぎ、子どもたちの居場所を守った実績もある。同社の鈴井慎太郎専務は融資を受け、「障害がある子どもたちの居場所はまだまだ少ない。誰一人取り

社会課題解決へ 県内金融機関 融資に力



サステナブルファイナンスの重要性を語り合う浜松いわた信用金庫の竹内嘉邦SDGs推進部長(左奥)ら金融機関や企業の関係者たち。浜松市中区のFUSEで

残されない地域を築いていきたい」と誓う。

浜松いわた信金は、こうした4種類のSFの枠組みを用意し、30年度までに1750億円の実行を目指すとしている。竹内嘉邦SDGs推進部長は「脱炭素化といった地球規模のテーマばかりが想像されがちだが、地域課題は幅広い。自分事として落とし込むことで、事業者として何をすべきか見えてくる」と強調する。

県内の他の金融機関も、30年度までのSFの融資目標を掲げている。地場最大の静岡銀行は2兆円と設定。清水銀行は3千億円としている。静岡の持ち株会社しずおかフィナンシャルグループの柴田久社長は「大手のサプライチェーン

(供給網)を構成する中小企業にもSDGsの取り組みが求められている」と後押しを力説する。

楽天グループの今年7月の調査によると、SDGsという言葉の認知度は87.1%で、20年12月と比べて36%以上も増えた。新型コロナウイルス禍で世界が混乱する中、社会課題解決に目を向ける意識が急速に広がってきたことを物語る。

県西部の自動車部品メーカーの役員は「新卒採用の面接で『御社が力を入れてるSDGsは何ですか』と逆質問された」と話す。企業の姿勢が人材確保にも直結しかねない時代が到来しつつある。

脱炭素化に向けた太陽光発電設備や電気自動車(EV)の導入資金の需要は高く、金融機関にとってSFは融資の新たな切り口として期待がかかる。

各種の枠組みはいずれも、SDGsの取り組み状況や目標値を評価した上で融資を決める。浜松いわた信金の竹内さんは「融資をして終わりではなく、目標達成に向けた手を一緒に考える伴走支援が重要」と語る。地域の企業が充実した活動を持続的に進められるよう、後押しする手腕と責任感が求められている。